

ひまわりからの メッセージ

169号

2026.1.19

NPO ひまわりの花内
西濃園域

発達障がい支援センター

発行人：中野にみ子

「おらが春は

中くらいい？」



新年を迎えて、早半月が過ぎました。

「目出度さも中くらいるせおらが春」と詠んだのは
小林一茶だったでしょうか。継母との長い確執の末、
郷里に戻ったのは、一茶が五十歳を過ぎたことだ
ったと聞いたことがあります。正月といっても、子供の
頃のような嬉しさや楽しさはなく、年齢を重ねる
と、まさに、そんな感じが強くなります。

心浮き立つ思いより、同年の方々の病の報に接し
たり、昨年賀状了いをいただいた方に、長年のお
礼をこめて、こちらにも賀状了いにしようと便利し
たとこら返ってきたのが喪中甚書書だったりして、人
の世のはかなさを思い知らされることも多くなりました。

ところで、昨年来、各地で熊が出没し、襲われて
亡くなられた方もあって大さわぎになりましたが、わが
里にも影響が及んでいます。先日、上石津の方にお目
にかかった折、子ども達の山の神の行事も全て止めにした
とのこと。朝夕の散歩も心配される昨今です。

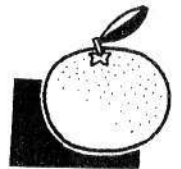
わが里では、熊のみならず、色々な野生動物が人の家
に住みこんでいて、いたり、きつね、白鼻心（ハクビシン）など
自宅気取りの動物に悩まされています。

わが家には夏みかんや八朔の木があり、昨年上手に皮を
むいて八朔を食べていたのは、どうやら白鼻心だったらしく
今年は屋根裏に居を構えることに決めたようです。大
好きな八朔が目の前に実っているのですから、これほど心地
良い住処はないわけです。こちらはいささか困って、業者
の方にお願ひして転居していただくことと策を練っているの
ですが、なかなかお相手に退去を決めていただけないようで
強制退去の方法を探しあぐねているという現状です。し
ばらくは共同生活に甘んじていくほか無いのですが、もしも
大人しく退去してくれる方法をご存知でしたらお教えく
ださい。

庭先では白の佗助が花を終え、淡いピンクの佗助が咲き
はじめました。とても優しい色合いの花です。

子どもの困りはどこに？

サポートブックを見直そう！



支援が必要と思われるお子さんが持っているサポートブックは、西濃の圏域でも名称は様々です。スマイルブックと呼んでいる市町やレインボーブックと呼んでいる町など、名称はちがっても、子どもたちを支援するためのブックです。当然所有者は保護者であり、一月に入ってから、各市町で引きつけが行われていると思います。

昔は保護者を入れずに「保幼小連携」などと呼ばれて関係機関同士の連絡に終始していたようですが、最近は保護者同席という所も増えてきていると思います。

サポートブックは情報の宝庫です！

引きつけ会に出席して思うことは、先生方も保護者の方も、ブックの中の情報をしっかりと見ておられるのだろうかという事です。例えばWISCの結果だけを見ていうふうにならないでしょうか。

先日、ある保護者の方が「三年間通級に通ったけれど何

をしてもらったのか分かりません」と言われるのです。そして、その発言に対して担任からのフォローもなく「この子は書くのが苦手です」という発言がありました。

ブックの中味を確認すると視機能検査であるWAVES（ウェーブス）が実施されていて、眼球運動の低さや調節機能、両眼視など、視機能の問題がもう何年も前に明らかになっていました。

通級指導では、当然そのことが分かって指導されてきたでしょうが、そこに家庭との協力で行えるような遊びやトレーニングは提案されなかったのでしょうか。まさかどの子も一律にコグトレやそ線なぞりをしてSSTをして等という指導ではなかったと思うのですが、保護者の理解が進んでいなかったのは残念でしたし、担任との連携が十分されてなかったことも残念だったと思いました。

ぜひサポートブックの中味をもう一度見直してみませんか？指導につながる情報がたくさんありますから……

WAVESについて

最近、書くことが苦手だという子を多く見かけます。体の中心（体幹）がしっかりしておらず、バランス反応も弱く、従って手先が不器用で鉛筆を正しく持てないために上手く書けない子もいます。しかし、目の機能の問題をもつ子もいます。手元

をしっかり注視（固視）できなかったり、眼球をうまく動かせなかったり、両眼視が出来ないなど、視力は良くても見え方に困りがあったりします。

書くのが苦手な原因は何なのか、子どもの困りに関して、常に「なぜ？」と考え、探っていく視点が私たちには必要ですね？。サポートブックには含まれたWAV E Sの結果も見逃さないようにしたいですね。

MSPAについて

お子さんの中には、医療機関で行われたMSPA（エムスパ）がブックには含まれていることがあります。これは、お子さんの特性を知るもので十四項目あり、図示されています。図の中心から外にいくほど特性が強いということになります。

ASDの特徴として、コミュニケーション、社会適応、共感性、こだわり、感覚、反復運動があげられており、DCD（発達性運動協調症）の特徴としては、粗大運動と微細協調運動の二つ、ADHDとしては、衝動性多動、不注意の三つがあげられています。そして、その他として言語発達、学習、睡眠リズムという項目があります。

各項目の数値が高い程、手厚い支援が必要と考えられるわけですが、MSPAの欄外には特技や得意

分野も記載されるようになっていて、本人自身が得意不得意を知って自己肯定感の維持や生活の安定につとめ、将来の就労につなげていくということにも利用していきます。

サポートブックに、このMSPAがつけられていても、どれだけの人が注目しているでしょうか？。例えば、このチャートで不注意の値が高ければ、忘れ物や失くし物が多いでしょうし、片付けや整理整頓は苦手だと考えられます。そんな特性があるのに何の手立てもせず、保護者や支援員が全て本人に代わってやってあげていたり、自立は難しいでしょう。

衝動性の値の高いお子さんに対して、怒りのパニックが出ないように、本人の言うがままに周りが合わせていたり、暴君に育ててしまう危険性もあるでしょう。見通しを立てて、まずは待つことの工夫が要りますね。

家庭では自分の思いが通うないと母や祖母に手をあげて自分に従わせている子が「学校では何の問題もありませんから……」という引きつぎもありました。本当にそれで良いのでしょうか。「学校ではなるべく穏やかに過ごせるようにしています」……

集団適応力や共感性に支援が必要なお子さんは、おそらく皆と一緒に同じペースで取り組むことは難しいに違いないと思います。まずは意識的に周囲の様子が観察できるように、その場に居ることが参加であるという意識が園や学校に

無いと、よけいに状況をこじらせてしまいうことになるでしょう。特性を知るといことは、放置しておくことでもないし、皆と同じにさせようと強要することでもないと思います。しかし、育てにくい子をもつ保護者の方と一緒に手を取り合っていくのであれば、将来どこかでつまずきます。

乳幼児期の記録の見直し

この子はいつ歩いたのだろうか、いつ、意味のあることば（マンマ、ブーブなど）を言うようになったのだろうか、感覚の問題はなかったのだろうか、人見知りの激しさは？、人と共感できているだろうか？、人とかかわらず一人でおもちゃと遊んでいることが多かったか？、

こういう乳幼児期の姿が、今につながっているのだということと私たちは知っておく必要があります。乳児期のスキミングの少なさが、今の注目要求につながっているのかも知れませんし、兄弟関係にも目を向ける必要があるかもしれません。そして、感覚の問題は私たちが考える以上に本人の困りに結びつくことが多いので、その点は保護者の方の記憶に頼らざるを得ません。融覚防衛反応があると、集団に入れようとして手を持って引っ張っただけでも、それを恐怖と感じて、それ以後はその相手に対

して心を開こうとしないこともありますから、特性理解ということが本当に必要だと思っています。

いづれにしても、引きつり会合は、どの地区でも始まったばかりで、次の機関に要求を出すことが目的ではないはずです。園で出来た支援が小学校で出来るとは限りませんし、小学校と中学校でも環境が違います。その点を考慮して発言しないと、保護者の不信感につながってしまいます。例えば園で全体に一斉指示をした後で、その児に個別に声かけをしてきたとしても、通常学級ではできません。「①②③」という指示の出し方も学校に要望することではないでしょう。環境が変わっても出来ることと出来ないことがあることを先生方自身が知っておくのは当然です。自分の実践を発表する場ではなく、本人の困りに対する具体策の一端を話す場であることを肝に命じておいてほしいなあと老婆心ながら願っています。

2月の予定

- 2日 県懇話会
- 4日 ヒアサポート
県支援体制整備
- 5日 安ハチーム会議
- 9日 センター親の会
- 13日 大垣工業
- 16日 5歳医療
- 18日 センター会議
療育スタッフ研
- 19日 安ハ教育相談
- 25日 ひきこもりP
海津療育システム
- 26日 大垣市連絡会議
- 27日 3町自立支援(協)
- 成人相談 揖斐川 養老
海津 垂井